

《東日本大震災から2年が経過》

力強く復旧し地域輸送を取組んでいる被災バス事業者

平成 25 年 4 月 30 日

公益社団法人日本バス協会

平成 23 年 3 月 11 日の「東日本大震災」から2年余りが経過した4月25日～26日、公益社団法人日本バス協会では、会員事業者の復旧状況と抱えている課題の把握と収集に向け、岩手県、宮城県、福島県の現地調査を行いました。

複合災害により破壊的な被害を受けた会員事業者は、力強く復旧し地域公共交通としての使命を果たしている事に感動を受けましたが、その一方で多くの課題も提起されました。

今報告は「速報」とさせていただきますが、別途報告書を作成しご報告を致します。

また、ご協力を頂いた三県のバス協会及びバス事業者の皆様にご心より感謝申し上げます。

【岩手県交通(株)釜石営業所】

岩手県交通釜石営業所の曾根所長は、「釜石営業所は津波被害をまぬがれたが、通信が途絶え状況把握ができない中、バスのテレビをつけて大変な状況が分かった。



本社との連絡がつかない

ため、自分の判断で避難

【無我夢中で輸送指示したと曾根所長】

【震災直後の東前折り返し場】

民輸送に取組んだ。津波で東前の折り返し車庫が崩壊したが、関係グループ企業やバス協会の支援は忘れられない。仮設住宅は高台に設置されており、バス輸送が非常に重要となっている。従業員全員で地域の安全輸送に頑張っています」と、当時の状況などを話してくれました。

【有限会社城山観光】

「事務所と車両全てが流出した。日本バス協会加盟事業者より貸切バスの譲渡が有り、事業の復旧をした。



現在は13両になり、学校関係を中心に地域輸送の任務を果たしている。東京の企

【支援されたバスの前で語る松橋常務】

【震災直後、復旧を誓った松橋常務】

業より毎月輸送の依頼が有り、従業員全員で頑張っているが、働く人は復興事業に行ってしまうバス運運転者不足が深刻となっています」と、松橋常務からは課題も含めての報告がありました。

【大槌地域振興株式会社】

「震災前は小型バスを4台保有していたが2台は高台に避難させることができた。バス協会会員事業者から車両を譲渡されて事業を存続した。現在は車両も7台になり、大槌町委託路線や

仮設住宅の輸送を引受けている。仮設住宅は分散しており運行は多忙であるがバス運転者が不足している。全国の会員事業者の支援には心から感謝しています」と、芳賀部長は報告してくれました。



【立て直した車庫の前で語る抱負】



【災害直後に避難を語る芳賀部長】

【仙台バス株式会社】

「仙台バスは25両の貸切バスの内、13両が津波により消失した。一年度後に現状復帰させ、車両も29両に増加した。現在、JR常磐線の代行輸送を4両で行っているが、復興事業の関係で二種免許の運転者も含めてトラック運転者になる方が多い。バス運転者不足が深刻な問題です」と、猪股代表取締役は報告をしてくれました。



【事務所の復旧を説明する猪股代表】



【津波で土砂に埋もれた事務所】

【BRT運行の説明を受ける】

JR東日本気仙沼BRT営業所より、BRTで運行している「気仙沼線・大船戸線」の仮復旧運行状況の説明を、ミヤコーバスの気仙沼仮営業所で受けました。「鉄道復旧の検討と並行して安全で便利な高速輸送サービスを提供できるよう、BRTを活用した仮復旧を進めている」と、説明を受けました。



【気仙沼営業所配置のBRT車両】



【気仙沼仮営業所車庫】

【東北運輸局における意見交換】

4月26日、東北運輸局との意見交換を宮城県バス協会と共に行いました。ご対応を頂いた東北運輸局の長谷川局長、御木自動車交通部長、中屋敷旅客第一課長に対し、藤井理事長より

- ① 特定被災地域公共交通調査事業等の延長と緩和策。
 - ② BRT運行と山田線のバス振替輸送の課題。
 - ③ 復興に伴うトラック運転者の増加に対するバス運転者不足対応。
- 等を要望し、皆様と意見交換を行いました。



【東北運輸局に要望する藤井理事長】

※岩手県、宮城県、福島県の各バス協会及び岩手県交通(株)、岩手県北自動車(株)、(有)城山観光、大槌地域振興(株)、宮城交通(株)、(株)ミヤコーバス、仙台バス(株)、仙台市交通局、福島交通(株)、新常磐交通(株)、福島観光自動車(株)、東日本旅客鉄道(株)の皆様からご協力を頂きました。